



一般社団法人  
うるわしの桜井をつくる会  
〒633-0091 奈良県桜井市  
桜井1259エルトさくら内  
TEL&FAX:0744-43-7773  
URL : <http://lets.some.jp>  
E-mail : [lets@some.jp](mailto:lets@some.jp)

平成30年1月

# うるわし通信

## 今年は逆転の発想を！！

平成30年を迎え、会員各位の本年のご健勝をお祈り申し上げます。

さて、あと16か月で平成時代が終わり新しい時代が始まります。元号が変わるとこれまで不思議に大変動が起こってきました。明治維新は勿論、大正初期には第一次世界大戦、昭和初期には世界大恐慌、平成に入るとバブル崩壊で苦しいデフレの時代が始まりました。

現在も耳をすませば時代の変動の足音が潮鳴りのように響いてきます。

まず予想をはるかに上回るスピードでAIとIoTの波が押し寄せ経済も社会も暮らしも劇的に大きく変わっていくでしょう。

経済も地球に負担をかける産業が衰退し、地球課題解決型企業に投資が向かっています。中国はいち早く自動車のEVシフトを宣言しました。

去年暮にSDGsプラットフォーム（sustainable development goals）が日本全国で結成されました。国連決議による持続可能社会のための17の目標に向かって活動しようというもので、裏を返せばここに大きなビジネスチャンスが広がるということです。時代の波に乗ってこのチャンスを生かしていかなければなりません。

しかもビッグビジネスだけでなく、スモールビジネスにも好機であります。人口減少、過疎化、高齢化もマイナス面のみで捉えるのではなく、ピンチをチャンスに変え、新しいビジネスに繋げる可能性が大いにあるのです。20世紀型思考を新時代思考に切り替えましょう。

うるわしの桜井をつくる会は各位のご協力とご尽力により、昨年は国民文化祭参加や「障害のある人もない人も共に」生きる芸術祭、次世代育成、歴史研究などに積極的に取り組んで頂きました。

これから桜井市でも県との連携により、大神神社、桜井駅周辺、大福地域、長谷寺、巻向などの活性化計画が進展していきます。これらを契機に新しい発想で民からの「人口減少のピンチをチャンスに変える」逆転の発想と知恵を出して考えていこうではありませんか。



うるわしの桜井をつくる会 会長 堀井良殷

うるわしの桜井をつくる会 会長 堀井良殷

## 昨年の桜井市をふり返って

2017年（平成29）年は、桜井市にとってどのような年であったのか。市広報誌である「わかざくら」の記事を見ながらふり返ってみました。（編集子 楠木克弘）

### <若い世代への期待、一層の市民参画の工夫が求められる>

1月号は、桜井消防署の新庁舎が完成して新業務の開始や、16年ぶりに開催（28年11月）された「子ども議会」が特集され、新しい桜井のスタートを飾っている。

2月号は中学生の職場体験

3月号は「陽だまり」での集いの広場活動が特集されるなど、若い世代への期待と、その紹介記事が連続的に掲載されていた。



奈良県広域消防組合 桜井消防署



桜井市保健福祉センター「陽だまり」

4月号は、桜井市「第3次障害者福祉基本計画」（平成29年から38年）策定が紹介され、障害者差別解消推進法や同趣旨の県条例に沿って、桜井市での取り組み方の基本姿勢についての紹介がされている。しかし、策定についてパブリックコメント（以後「PC」）の公募（29年1/23～2/3）がなされたが、応募は1名のみであった。「PC」については、ホームページで意見公募が8件されたことが紹介されているが、多くは「応募が無かった」状況になっている。市民参加の各種施策やまちづくりが提唱されている中で、市が実施する「PC」について対応方法の再検討が、求められている現状である。

### <厳しい財政状況と地域資源の活用・保全対策>

5～6月号は省略するが、7月号は新庁舎建設について紹介され、「PC」ではないが市民からの意見は多数寄せられた。建設について賛成の立場からの提起や、反対の立場から他の施策を優先すべきであるなど等々。その概要も市のHP（庁舎建設準備室）で閲覧は可能である。この様な方法で「PC」を求めることも参考にしたらどうだろうか。

9月号は防災月間として特集が組まれており、10月号は「ふるさと納税 桜井の魅力発見」として納税への様々な返礼品の紹介がされている。実際に新しくなったふるさと納税については、全国から多くの納税がされている状況と聞く。

10月は台風21号22号のダブルパンチで、全国的に大きな被害が出ているが、桜井でもがけ崩れ・崩壊か所が多発し、浸水もあり大きな被害が出た。「災害は忘れた頃にやって来る」から、「いつ来ても不思議でない」短時間での大雨や、川の増水が昨今増えており、常日頃からの備えと防災対策が一層求められている。



築50年が経過している、桜井市役所本庁舎

## <障害のある人もない人も共に まちづくりへの課題>

11月号の「桜井をつなぐ人」コーナーに、本会会員の米田昌徳さんが11月17～19日にかけて奈良市で開催された『視覚障害者囲碁世界選手権』大会の開催功労者（盲人用の囲碁盤の製作者）として紹介されている。詳しく「わかざくら」のコーナー記事を是非見て頂きたい。

併せて、本通信では、3月より国民文化祭と全国障害者芸能・文化祭（障文祭）の一体開催についての取組みを、桜井でも推進しようと呼びかけ、11月25日に市立図書館での『卑弥呼の里 芸術祭～障害のある人もない人も共に in SAKURAI～』を関係諸団体と共に進め、220余名の参加者で盛大且つ感動的なイベントとなった。この活動を通じて、桜井のすばらしさ、そして様々な課題も明らかになって来たように感じた。取組みに協力頂いた皆様に、改めてお礼申し上げます。

12月号では、障害者週間（12/3～9）を特集して、市内の障がい者福祉施設の活動紹介がおこなわれている。

「障がいのある人もない人も共に」は、響きのいい言葉ではあるが、それを具体化していくためには、健常者が「障がい者を理解する」だけではなく、障がいがあっても一人の主体として、ありのままに生活できる地域社会づくりが求められていること。そのためにも、市が作成した「障害者福祉基本計画」の具体化が求められるが、それをどのように進めていくのが、新年に引き継がれた課題となる。

『障文祭』は、当事者の主体的な活動が多く感動を与えると共に、障害の有無に関わらず一体となった取組みが、新しい地域文化を創ることを指し示してくれたと言える。



卑弥呼の里 芸術祭～障害のある人もない人も共に～

## 松本俊吉氏について

ある郷土史家の膨大な著作や、関係資料がこの夏、桜井市立図書館・桜井市埋蔵文化財センター・奈良県立橿原考古学研究所に移管された。

その名前を松本俊吉（1919～2007）という。うるわしの桜井をつくる会の創設者の一人である故芝房次先生は、生前もし桜井市で個人記念館をつくるとすれば、文芸評論家の保田與重郎、郷土史家の松本俊吉、考古学者の森本六爾に尽きると主張されていた。

経歴を紹介すると、奈良県桜井町に生まれ、天理中学時代から土器採掘を趣味としており桜井市出身の国学院大学樋口清之教授の門下で研鑽を積んだ。教授は日本考古学の黎明期を支え、民俗学・文化人類学など幅広い研究活動を行い柳田國男に並ぶ学界の権威であった。

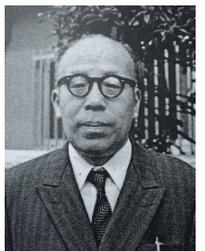
大和タイムス社（現：奈良新聞）に勤務、文化記者、支局長を歴任し、同時に県内にある古代遺跡、神社仏閣、城跡、民俗等の調査を続けた。連載した「ふるさとを行く」は300回を超える。1962年からは34年間「桜井史談会」を主宰し、関西各地から参加する100名以上の会員を、遺跡、寺社、史跡、祭礼等に案内した。

桜井市や奈良県の観光振興に大いに貢献したことから、奈良県知事や文部大臣から表彰を受けている。多くの著作があるが、「奈良の民話」はネットで検索すれば今でも手に入る。

今回の移管にあたって、自宅を訪問したところ、民俗学・民話・祭礼等の資料が整然と多くの書籍と共に保存されており、書斎には着古したコート、黒光りする文机、使い古した文具等まるで昭和レトロをそのままのセピア色の不思議な空間が残されていた。懐かしい気がし、北九州市小倉の松本清張記念館を想起させられた。東京杉並の清張が確かに在ったその空間を切り取り、家屋全体、蔵書のすべて、万年筆一本までを生誕の地に移築したものである。ちなみに松本清張は、桜井市出身の考古学者森本六爾をモデルにした小説「断碑」を著している。

最後にご遺族や近隣の関係者に深く謝意を示すとともに、これらの民俗学・民話・祭礼等の資料が編纂・整理され後世にわたって活用されることを期待するものである。

文責（船谷 晴夫）



松本俊吉氏

## 第7回新春交流昼食会

毎年恒例の交流昼食会を開催します。  
今年は「土舞台ユーラシアアンサンブル」の演奏会を企画していますので、多数のご参加をお待ちしています。  
日時 平成30年1月21日（日）正午より  
場所 桜井市粟殿「あるぼ〜る」  
会費 ¥3,000  
申し込み 1月15日まで 事務局：高瀬（TEL：090-1678-9157）



## 万葉歌碑原書写真パネルの展示

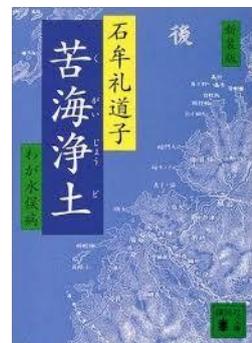
桜井 記紀万葉プロジェクト推進協議会では、平成29年度の追加事業として、過去に製作した「歌碑写真パネル」を活用した【市内巡回写真パネル展】を実施し、市民への啓発活動に取り組みます。新年から公共機関、金融機関、神社等で順次公開を予定しています。なお、1月22日から31日まで、イオン桜井店2階休憩所にて開催されます。



## お知らせ

### ●図書館友の会

1月の読書会は、テーマ「石牟礼文学について語る」です。  
対象書籍 石牟礼道子著「苦海浄土」「神々の村」「天の魚」の三冊について  
どれでも結構ですので、その内容について語り合います。  
日時 1月23日（火）13：30から  
場所 コミュニティーカレッジ 知の森  
近鉄大福駅から北西へ100m  
問い合わせ先 浅川 肇 TEL：090-1961-6345  
友の会会員以外の参加も歓迎します。



【編集後記】 トランプに開け（1月20日就任）、「北」の漢字で迎える年の瀬となった。「ファースト」という第一主義が進められる政策は、様々な軋轢を地球規模でおこしている。救いは、国連での核兵器禁止条約が採択されたことと、核兵器廃絶国際キャンペーンを推進した「ICAN」（アイキャン）が、ノーベル平和賞を受賞して、国際的な世論を造りだしていること。2018年が、地球環境・平和・相互理解の取組みが進む年となることを願い、「Think Globally、Act Locally」（地球的規模で考え、地域で取組む）で行きたい。（K）

うるわし通信発行人  
高瀬 安男  
TEL：090-1678-9157